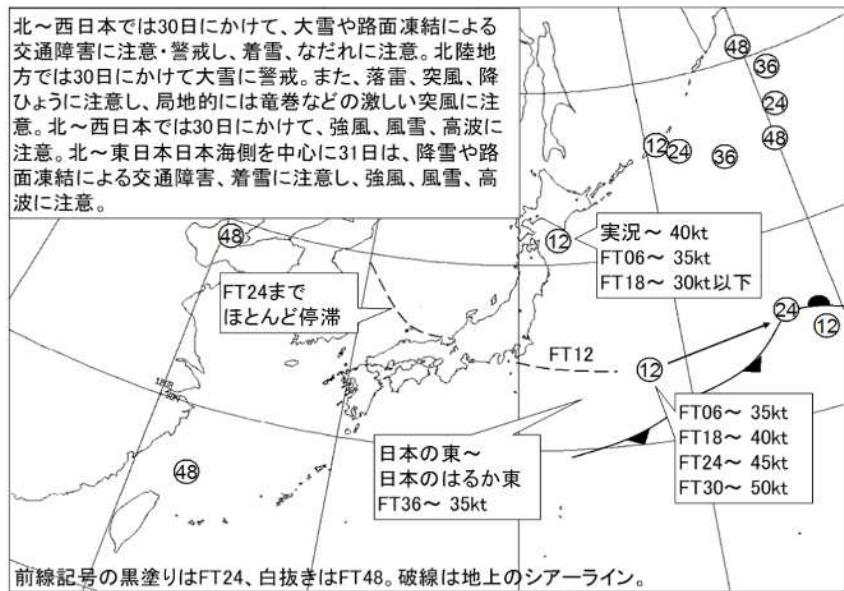


短期予報解説資料 2026年1月29日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日高沖付近をゆっくり東進、低気圧付近から沿海州沖に気圧の谷がのびている。500hPa 5160m以下で-39°C以下の寒気を伴う寒冷渦が沿海州付近を南下。日本付近は、強い冬型の気圧配置となっており、日本海西部の日本海寒帯気団収束帶 (JPCZ) が山陰沖を指向。北～西日本では広い範囲で、やや強い風を観測。北～西日本日本海側を中心に3時間3～7cmの降雪を観測。
- ② 伊豆諸島付近には気圧の谷がのびており、近傍で発雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 日本付近は30日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、850hPaの気温は北日本で-12°C前後、東～西日本で-9°C前後の強い下層寒気が流入。500hPa 5220～5400mの-36°C以下の寒気を伴うトラフが30日前半にかけて北～東日本を通過する。1項①の沿海州付近の寒冷渦は、次第にトラフとなり、30日後半から31日にかけて北日本を通過する。1項①のJPCZは日本海西部で、ほとんど停滞した後、30日夜までに不明瞭化する。1項①の日高沖付近の低気圧は、30日朝までに不明瞭化し、気圧の谷は、30日夜までに不明瞭化する。1項②の伊豆諸島付近の気圧の谷は、30日朝までに不明瞭化する。冬型の気圧配置、JPCZ、気圧の谷、上空の強い寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い降雪が強まり、強い風が吹き、しける所がある。雪雲の流れ込みで普段雪の少ない東～西日本太平洋側でも降雪となる所がある。北～西日本では30日にかけて、大雪や路面凍結による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。北陸地方では30日にかけて大雪に警戒。また、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北～西日本では30日にかけて、強風、風雪、高波に注意。
- ② 31日は冬型の気圧配置が続くが、日本の南に高気圧が発生し、次第に冬型の気圧配置が緩む。30日朝までに低気圧が東シナ海で発生し、前線を伴いながら南西諸島付近へ東進する。冬型の気圧配置の影響で、降雪が持続し、強い風が吹き、波が高くなる所がある。また、冬型の気圧配置と上空の強い寒気及び南西諸島へ進む低気圧や前線の影響で、大気の状態が不安定となる可能性がある。北～東日本日本海側を中心に31日は、降雪や路面凍結による交通障害、着雪に注意し、強風、風雪、高波に注意。また、北～西日本の多雪地では31日にかけて、なだれにも注意。北～東日本日本海側と南西諸島を中心に31日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】
① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
② 降雪量(18時からの24時間)：北陸70、東北・近畿50、関東甲信・東海・中国40、北海道30cm。
③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・伊豆諸島・北陸・近畿・中国4、東海・九州北部3m。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雪に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。